JAIF

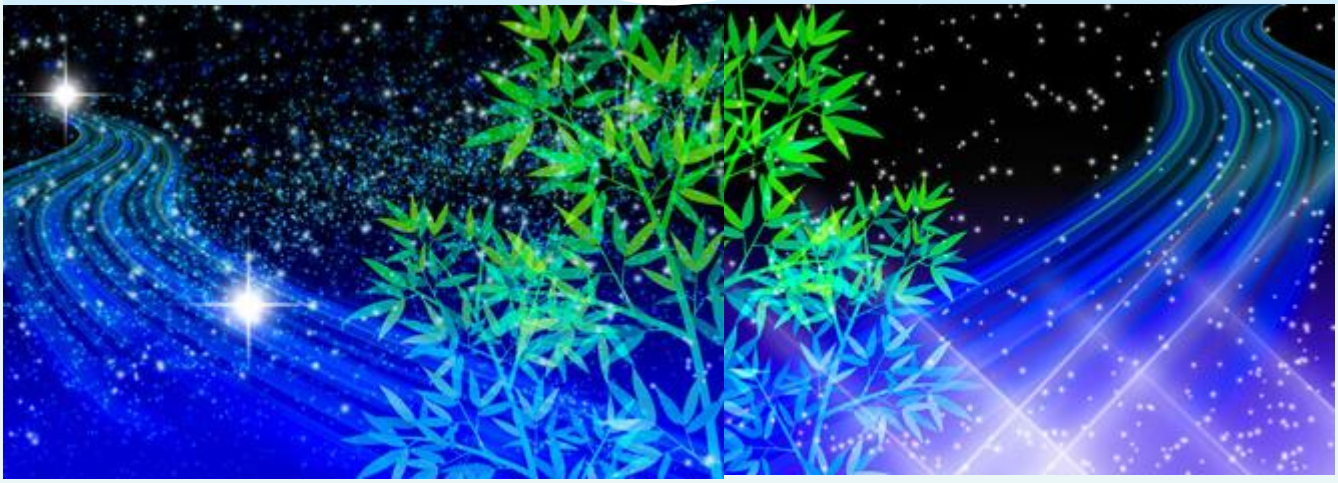
国際結婚を考える会

Japan Association of Intercultural Families

会報誌第9号

www.kokusaikazoku.com/
jaif@kokusaikazoku.com

【特集】『私が平和について思うこと』



Copyright (c) 2021 国際結婚を考える会(JAIF) All Rights Reserved

Page	CONTENTS
	【特集】『私の人生を豊かにしてくれるもの』

3	●「私が平和について思うこと」	三好郁也（会員）
6	●かつての敵同士が家族を作り、平和について思うこと。	H.C
9	●アメリカに留学したら日本の過去がついてまわった話	清　麻桐（会員）
14	●戦争をリアルな体験として感じることが平和につながる	山下　牧(会員)
19	●地球規模の「平和」は、地域で行動することから	もりきかずみ（協力者）
24	« 国際家族のレシピ紹介 » グラノーラを作ってみませんか？	リード真澄(会員)
25	Culture Crossing 「女性から見た戦争と平和」テーマに、独断と偏見で3つのノンフィクション・漫画・映画（アニメ）オススメ作品を選んでみました。	会報係　清　麻桐
28	«海外便り» フランスの交通事情について	ジロー岩内佳代子（会員）
31	JAIFイベント報告	イベント係
32	編集後記｜次号予告	会報係

「私が平和について思うこと」

三好 郁也（みよし ふみや）（会員）東京在住

広島県三原市出身。現在は東京都に住んでいます。
年齢は29歳。大学時代、留学生だったリトアニア人の女性と出会い、交際を始めました。
日本とリトアニアでの1年半の遠距離恋愛を経て、現在は入籍準備をしています。
広島と東京での2拠点生活をしています。
仕事は、国際結婚専門の保険屋・保険屋営業向けの月刊誌の執筆業・東京の六本木にてBarの経営など色々やっています。

国際結婚を考える会の皆さま、初めまして！最近、国際結婚を考える会に参加させて頂いた三好郁也です。年齢は29歳で、リトアニア人の女性と婚約をしています。21歳のとき、留学生として来日した彼女に出会いました。そこから交際を始めて、現在に至ります。国際結婚の知識や経験を会員の方々から教えて頂けるのが、とても楽しみです！

私は広島県出身です。「広島」と聞くと、外国でも有名な都市だと思います。私たち広島県民にとっては、「平和」というテーマは幼い頃から考え続けたテーマです。そして、その平和に対する考え方は、国際恋愛を通じて、変化していきました。私がリトアニア人の彼女と交際を始めた時、地元の友人は「リトアニアってどこ？」「初めて聞いた国だ！」という反応が多かったです。私自身も、リトアニアという国を知らず、ほとんどの日本人が同様の反応だと思います。

「私が平和について思うこと」

三好 郁也（みよし ふみや）（会員）東京在住

交際期間が2年、3年と続くうちに、周りの友人達から「リトアニアの特集、テレビで観たよ！」「リトアニアのお店見つけたよ！」という声をかけてもらうことが増えてきました！

そして、平和について考えさせられたのが、今回のウクライナ戦争です。戦争が起きた時、多くの方から、「リトアニアは大丈夫なのか」「リトアニアにいる彼女の家族は無事なの？」という心配の連絡を頂きました。数年前まで、私の周りの友人達にとって「名前はおろか、存在すら知らない国」それがリトアニアでした。ですが、私の彼女と出会い、ウクライナ戦争のニュースが流れた時、すぐに私の彼女や、会ったことも見たこともない彼女の家族の存在が思い浮かんだのだと思います。

◆ Šaltibarščiai/シャルティバルシチャイ

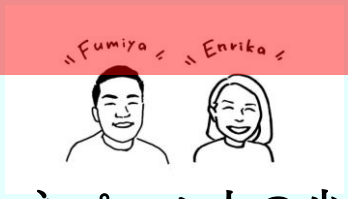
※リトアニアでの写真。彼女のおじいちゃん宅でご飯を食べました！

平和への一歩は、他人事から自分事へと変わるコト

「平和」と聞くと、戦争が起こらない世界のように、大きなテーマで捉えます。ですが、誰かのコトが頭に浮かび、他人事から自分事へと変わる。これが平和への大きな一歩なのではないかと、今回のウクライナ戦争を通じて感じました。

私自身、ウクライナへ募金をしたり、毎日ウクライナ戦争のニュースを追っていたのは、彼女の家族や彼女の友達が身近な存在であり、他人事ではなかったからです。もしも、私が彼女と出会っていなければ、今でもリトアニアは、「名前はおろか、存在すら知らない国」だったと思います。そして、ウクライナ戦争についても自分事として考えられなかったと思います。

その国出身の人と出会い、国を知り、何か起きた時には、その人が頭に浮かび、他人事から自分事に変わる。平和の一歩ってこんな小さなコトから始まるのではないかなと思っています。



「私が平和について思うこと」

三好 郁也（みよし ふみや）（会員）東京在住

ネパール人の少年が言った「当たり前だろ」

私が住んでいる場所の近くに大きな公園があります。そこには、子どもから大学生まで多くの人達が集い、交流の場所となっています。私もそこでサッカーをしていると、ネパール人の男の子達と仲良くなり、夕方になると、LINEが鳴り、サッカーの誘いが来るのが日常になっています。（笑）サッカーで走りまわった後の休憩時間、公園のベンチでボーイズトークが始まりました。国籍を問わず、恋愛トークは盛り上がる話題の鉄板ですね。

サッカー仲間の1人は、ネパール人の中学２年生の男の子です。私から「彼女いるの？」と聞くと、「彼女いるよ！」と彼は答えました。自然と気になり、「スゴいね！日本人の彼女？」と続けて聞くと、「当たり前だろ～！」って彼は笑っていました。「サッカーで負けたら、彼女の写真見せてよ！」というような遊びをして、より一層盛り上がりました。

きっと昔は、昔と言っても10年前の日本では、日本人とネパール人が付き合うのは珍しかったと思います。当時、国際恋愛をしているカップルがいたら、噂のネタになっていたと思います。もしも、私が中学生時代に外国人と交際していたら、良い意味でも悪い意味でもユニークだったと思います。でも、今の中学生のなかでは、「当たり前なんだー」と思うと、これも平和の象徴だと感じました。

ネパール人の少年が日本に住み続けるのか、将来はネパールに帰るのか分からないですが、彼にとって日本は第二の故郷だと思います。ネパールに帰国しても、日本で起きる出来事は他人事にはならないと思います。

この先、ネパール人の少年と日本人の彼女が別れたとしても、彼女にとってもネパールはどこか聞いたことのある国ではなく、なじみのある国として認識され続けると思います。国籍・文化・言語が違ったとしても、世界で何か起こったときに、そこで住んでいる友達や知り合いの顔が自然と思い浮かぶこと。それが平和へのきっかけだと思います。国際恋愛は、当事者だけでなく、周りの人間も含めて、平和につながると感じています。

かつての敵同士が家族を作り、平和について思うこと。

H.C

アメリカ南部での初顔合わせ体験

アメリカ人の夫と結婚をして35年がたった。思えば人生の大半は彼と一緒に生きていることになる。彼と出会って、面白いことや驚くことが沢山あったし、それが今でも毎日続いていて、飽きる事の無い結婚生活だと感謝している。

だいぶ昔のことになるので、二人とも記憶が大分あいまいではあるが、彼の継母の家族に初めて挨拶に行った時の事だ。アメリカ南部の本当に田舎町のそこから出た事の無いような素朴なお年寄りが数名私達を待っていた。私の顔を見て、黒人なの？と聞いてきた親戚の子どもがいたので、何と答えようかなと気の利いた冗談を考えていたら、その子のお母さんが慌てて、日本という国を学校で習ったでしょう！と笑顔で息子の質問をごまかした。

「日本」というキーワードになんとなく場が静まり返ったと感じたのは私だけだったのだろうか？

親戚は日本空爆のヒーロー

特に会話も盛り上がらないまま、家の中を案内してもらうことになった。2階に上る階段の壁に家族の歴史を感じる写真が沢山、しかもセンス良く飾られているのを何気なく見ながら一番上の立派な額縁の前に来て、一瞬足が止まり、そしてぞっとした。新聞の切り抜きを拡大したと思われるその記事には、B29らしき飛行機にぶら下がる若い兵士の写真があり「ジャップに攻撃されても奇跡の生還」というような見出しが躍っていた。継母の兄達は、第二次世界大戦で日本本土空爆に参加した英雄だったのだ。

その後、どんな会話をしてどう過ごしたのか全く覚えていない。

夫の父（右側）と父の弟（叔父）。
2人が第二次世界大戦に参加した時の写真。

夫の継母を含め親戚の全ての叔父叔母たちはすでに亡くなっている。退役軍人だった夫の父の葬儀の時、星条旗に包まれた棺が軍人によって厳かに運ばれていった光景を実際に見たがとても印象的だった。父はノルマンディー作戦でパラシュートからフランスに降り立って、ナチス・ドイツと戦った経歴を持っていた。

かつての敵同士が家族を作り、平和について思うこと。

H.C

日本の親戚のつらい体験

第二次世界大戦は77年も前の戦争ではあるが、私達夫婦のお互いの国が敵同士で壮絶な戦いをした戦争だ。私の母の兄は、今の北朝鮮で22歳の若さで戦死している。遺骨は戻ってこなかったが、靖国神社に祭られていて、実家の墓地には立派な石碑が立っている。他の二人の兄は戦時中、病にかかり薬もないまま10代で亡くなっている。戦地から帰ってきたすぐ上の兄は、戦地での話は決してしなかったと聞く。つらい体験だったに違いない。

元々、鈴木メソッドでヴァイオリンを始めた日本好きだった夫は、私の両親の希望を聞いて、結婚を機に日本に移住してくれた。一人っ子の私はこのことをとても感謝している。

広島、長崎、沖縄そして真珠湾へ～私たちなりの慰霊の旅

日本に来てから、二人で太平洋戦争のことを色々話していく中、広島、長崎、沖縄には是非行きたいねということに自然となった。空襲の被害を受けたのは、日本のほとんどの都市だと思うが、この3つの場所には、ぜひ行って自分たちなりの慰霊をしたいと思うようになったのだ。

訪れた3つの場所にはそれぞれ思い出がある。中でも広島平和記念資料館には圧倒された。あまりのショックで涙が止まらなくなった。皆さんも見学されたことがおありだと思うが、夫はここで原子爆弾についてのこれまでの考えが、まったく変わってしまったと言っている。想像を超えた被害に言葉を失ってしまったという。

広島の街は今では120万人の住む大都市だ。活気に満ち溢れた街を散策しながら、その明るさとお好み焼きの美味しさに少し救われた。

広島原爆ドーム

長崎平和祈念像

ハワイ真珠湾、
アリゾナ記念館

かつての敵同士が家族を作り、平和について思うこと。

H.C

沖縄も感動がいっぱいあった。こんな美しい海と浜辺を目の前にして、かつて繰り広げられた悲惨な戦いがあったということが信じられない。平和祈念資料館も時間をかけてじっくり見て回った。沖縄は今も日本全国の米軍基地の70パーセントを抱えている。

そして去年、やっと長崎に行くことが出来た。浦上天主堂の上空にさく裂した原子爆弾によって、禁教令が出た後も約250年にわたって潜伏キリシタンとして、歴史と信仰を守ってきたこの教会の信者15,000人のうち10,000人が亡くなったという。ハワイオアフ島の真珠湾にも行って来た。日本海軍によって撃沈された戦艦アリゾナが海の中にある。今もオイルが流れ続けていると聞いた。真珠湾攻撃での死者、行方不明者2,300人以上と言われている。

長崎の浦上天主堂に向かう夫

沖縄平和祈念公園モニュメントにて

少なくとも隣人を愛する努力をすることは誰にでもできる

第二次世界大戦で失われた命は日本だけで230万人、アメリカ29万人、世界では6,500万人に上る人命が失われたと報告されている。慰霊の旅を通して私達が実感したことは、失われた命と一緒に流された多くの涙があったということだ。

愛する家族を亡くして流された涙は世界共通だと思う。私達の二人の息子たちは、幸いなことにアメリカ人でもあり、日本人でもある。2人ともそのことを喜んでくれている。そして、どうかいつまでも息子たちが戦地に行かなくてもいい世界になってほしいと心から願う。

その為に私にできる事があるだろうか？

息子たちには、祖父母をはじめ両国の親戚たちが経験した悲しい戦争のことを伝えていきたいと思う。そして、もう一つ小さなことだけれど大切な事、隣にいてくれるアメリカ人の夫と仲良くする事だと思う。人間は戦争をすることもできるが、隣人や敵であっても愛することもできるのではないかと思う。少なくとも努力だけはできると思う。

アメリカに留学したら日本の過去がついてまわった話

清　麻桐（会員）アメリカ在住

留学先のマサチューセッツ州で出会ったアメリカ人の夫と2002年に結婚。家族は夫と犬一頭。現在4年半ぶりの里帰りを満喫中だが、台風14号（ナンマドル）の影響などで海況が芳しくなく、地元の海になかなか潜れないでいる。

緑に囲まれた我が母校。

高校を卒業してすぐ、アメリカ合衆国南部の田舎の小さい大学に留学しました。どれくらい田舎かというと、全校生徒は6,000人弱、大学のある町の人口は8,000人というくらいの田舎でした。大学附属の英語学校が東アジアで学生リクルートに力を入れていたせいで、日本人、韓国人、台湾人留学生のとても多いところでした。

当時90年台半ばでしたから日本は留学ブームで、留学する人が毎年増えていた時代です。日本政府が、日本軍の従軍慰安婦制度への関与を初めて認めた頃で、そのことについて哲学の授業で発言した記憶があります。

フレンドリーな台湾の学生たちから聞く台湾の歴史

台湾の留学生たちとは、大変仲良くお付き合いしました。一度、台湾人留学生E君に「なぜ台湾人は比較的親日的なのか」と聞いたことがあります。

太平洋戦争が終わって日本人が引き揚げた後、台湾に元から住んでいた本省人は国民党の支配下で大変苦労したので、日本人に対する印象が良いのだという答えに驚きました。もっと後になって台湾には「狗去猪来」（犬去りて、豚来たる）という言葉があることを知りました。獰猛な犬（日本）が良かったわけではないけれど、後からやってきた豚（国民党）は台湾を食い散らかすだけで、犬の方がまだましだったというような意味です。

N君（左端）、Pさん（左から二人目）と日本人の友人と私。
シカゴにて

清　麻桐（会員）アメリカ在住

日本に帰化したN君と台湾国籍のPさんの客家（はっか）カップルとは、一緒にシカゴやミズーリ州ハンニバルまで車を駆って旅行に行ったり、遠くまで一緒に点心を食べに行ったり、お家に遊びに行ってPさんの手料理をよくご馳走になる仲になりました。今はお互い別々に家庭を持っていますが、日本に住んでいるN君ご家族は、新幹線の駅まで里帰り中の私にわざわざ会いにきてくれ、Pさんご家族は台湾に遊びに行った時、故宮博物館や九份を1日車で案内してくれました。

韓国の学生たちとリメンバー・桃山時代

韓国の留学生たちと日本の留学生たちの間には、少し緊張感があったと思います。「なぜ韓国料理は辛いの？」と聞いたら、「秀吉が唐辛子を武器として持ち込んだから」。「下関の近くに住んでいます」と言ったら、「ああ、下関条約の下関ですね」。ふとした会話が藪蛇です。

南蛮貿易で日本にもたらされた唐辛子を豊臣秀吉が化学兵器として朝鮮半島に持ち込んだというのは本当らしいですね。それがたまたま五味のうちの「辛」、五色のうちの「赤」の両方をカバーする韓国料理に欠かせない食材になったわけです。

それでもJ-Popが好きな人もいたし、文法が似ていて楽だという理由で学部で必修になっている外国語に日本語を選択する留学生が多かったです。プルコギや冷麺、ムクを初めてご馳走になったのも、辛ラミョンを知ったのも留学中でした。割と近くの空軍基地がある町に韓国人コミュニティがあって、そこから友達に頼んで辛ラミョンを箱買いしてもらっていました。

微分積分学の授業でクラスメートになった縁で友達になったSオッパ（お兄さん）は、私と母がソウルに観光旅行に行ったとき、地方はもっといいところだから次は江原道（カンウォンド）に行きなさいよ！　と言いながら仁寺洞（インサドン）、明洞（ミョンドン）、国立中央博物館を案内してくれました。

学部にいた当時は韓流ブームが来る10年くらい前だったので、もっと後に留学していたら韓流ドラマの話をしながら韓国についてもっと深く学ぶことができたはずだったのにと非常に残念です。

清　麻桐（会員）アメリカ在住

大学院時代・北京大卒の学生たちと日中戦争の禍根

大学を卒業して入学した、ニューイングランド地方の大学院は世界中から留学生が集まるところで、北京大学出身の中国人の学生がとても多くて驚きました。

大学院一年目の秋学期に住んだ院生寮のルームメイトは、北京大卒で物理を研究するLさんでした。学生会館からLさんともう一人の北京大卒の院生と寮まで歩いて帰る途中「あなたは南京大虐殺について知っている？」と聞かれました。私が「知っている」と答えたら、彼女たちは満足したようでした。次に「日本の歌を歌ってみて」と言うので、咄嗟に「みんなのうた」で聞いて覚えていた「草原情歌」（有名な中国の歌です）を日本語で歌いました。

Lさんと私はお互い真面目な学生だったので、12月まで二段ベッドの上と下で仲良く過ごしました。寮の地下のキッチンでお料理をして一緒に食べたこと。私の料理を見ていたL さんの友達がお醤油とお砂糖を使った料理を作って、「日本料理を作ってみたわ！」と言ったこと（確かに肉じゃがや魚の煮付けなど日本料理の多くはその味付けなので、彼女の観察は本質をついていた訳です）。

高校漢文の知識をフル動員して「沛公の奥さんは悪いやつだ」と言う会話で盛り上がったこと。この時ほど中華文化圏の一員として、同じ古典を共有していることをありがたく思ったことはありません。Lさんにもらった翡翠のペンダントは今でも持っています。春学期には寮を出て他の院生とアパートを借りたので、Lさんとはそれきりになりましたが、深い思い出として残っています。

私と同じ研究室でアメリカのモンキチョウを研究していたW君も北京大卒の秀才でした。彼は日本人が研究室にいるのが気に入らなかったようで、会ってすぐに「君はなんで日本の大学院に行かなかったのか」と聞かれて答えに困りました。

W君の祖父母は日中戦争中に日本軍から逃げたことがあったそうで、私の母方の祖父は日中戦争で戦車に乗っていた人なので、私たちの祖父母は敵同士だったのです。

私たちの指導教官は、研究室の学生たちをハイキングやスキーに連れて行ったり、よく食事に招待したりしてくれたので学生たちが仲良くなりやすい環境ではありました。W君と私はぎくしゃくする仲でしたが、私の夫をはじめとするアメリカ人の学生たちが緩衝材になってくれて次第に仲良くなっていきました。

清　麻桐（会員）アメリカ在住

結婚式で弟や義弟妹たちと乾杯するW君（右端の男性）

W君の車でニューヨークやボストンに遊びに行きました。W君が夫、私ともう一人のアメリカ人学生にボストンの中華街で臭豆腐を食べさせて面白がっていたことは今でも本当におかしくて忘れられません。W君は料理が得意で、実家が遠くて感謝祭に里帰りできない学生が集まって感謝祭を催したとき、手作りの餃子やクラゲの冷拌（リャンバン）を持ってきてくれました。

皆で周星馳（チャウ・シンチー）監督の香港映画「カンフーハッスル」を見に行ったことも思い出のひとつです。

W君は私たちの結婚式にも出席してくれました。分子生物学の技術を根気よく私に教えてくれたのもW君で、私と夫が今日まで生計を立てられているのは実に彼のおかげです。今はカリフォルニアに住んでいるW君、あなたは自分が私の恩人だということを知っているかな。

アメリカ東海岸の市民公園で出会った太平洋戦争の記念碑

フィラデルフィアで働いていたとき、職場の同僚に誘われてフィラデルフィア自転車マラソンのチームに4年ほど参加していました。フィリピンのカタツムリを研究していたバギオ出身の院生Bさんとチームリーダーと3人で公園でトレーニングに励んでいた時、たまたま「バターン死の行進」の記念碑の近くで休憩していると、Bさんが「私のお祖父さんはバターンの生存者でした」と言いました。私は「あなたのお祖父さんが死なないで本当によかった」と言うことしかできませんでした。Bさんのお祖父さんは戦後、アメリカに移民する権利を与えられたけれど、フィリピンに残ることを選んだそうです。記念碑の近くにはフィリピンの英雄ホセ・リサールの銅像があって、Bさんはホセ・リサールは身長１メートル61センチだったけれども非常に女性にモテたことを教えてくれました。Bさんは村上春樹と夏目漱石と抹茶が好きで、職場でよく日本で行ってみたいところの話をしてくれました。

清　麻桐（会員）アメリカ在住

Bさん、チームリーダーと３人で特訓の後、ホセ・リサール像の前で記念撮影

母国の過去を見つめ、国際人として生きる

住んでいる国を一歩出ると、好むと好まざるとにかかわらず私たちはその国を代表していることにされてしまいます。国と国民一人一人は同じではありませんが、その二つを分けて考えるのはなかなか難しい。自分が生まれる前に国の誰かがやったことの責任を負わされているような気持ちにさせられることもあります。

政府が誠意を示して戦争責任にけじめをつけていない場合はなおさらです。私の愚かさから、出会った人に日本や日本人に対し悪い印象を与えてしまったこともありましたが、過去に起こったことはもう変えられません。日本を正しく知り、誠実な言動と行動を心がけてこの世界を渡っていくしかありません。

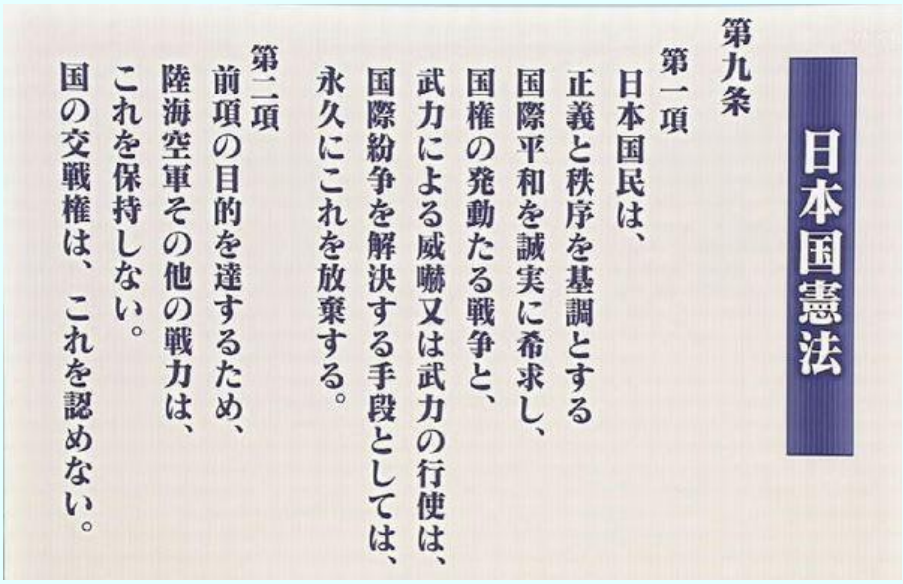
戦争をリアルな体験として感じることが平和につながる

山下牧（会員）東京在住

カナダ人の夫と娘の３人で東京に暮らす。米国で学んだアートを子ども達にシェアする仕事をしており、それが生き甲斐。和紙を研究する夫と共に和紙のワークショップや、本物の和紙について考える活動もライフワークになりつつある。その他環境問題を考える市民活動の一環として、「量り売りとまちの台所 野の」（食材の量り売りとシェアキッチン）を仲間たちと東京都三鷹市にこの10月にオープンしました！

「日本は、戦争しない？」

布団の中で８才の娘が毎晩、私に尋ねます。ロシアのウクライナ侵攻のニュースに触れて以来、娘は戦争と死の恐怖を訴えるようになりました。私が今の娘と同じ小学生の頃、学校の先生や親から教わった憲法第9条の存在は大きな安心感を与えてくれるものでした。海外での武力紛争のニュースを見聞きしても「日本は戦争しないから大丈夫」とそれが永遠に続くものなのだと、良くも悪くも心から信じて安心していたのを覚えています。


日本国憲法

第九条

第一項

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

第二項

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

RENUNCIATION OF WAR Article 9.

Aspiring sincerely to an international peace based on justice and order, the Japanese people forever renounce war as a sovereign right of the nation and the threat or use of force as means of settling international disputes.

In order to accomplish the aim of the preceding paragraph, land, sea, and air forces, as well as other war potential, will never be maintained. The right of belligerency of the state will not be recognized.

戦争をリアルな体験として感じることが平和につながる

山下牧（会員）東京在住

分からないうちに進められていて、気がついた時にはもう誰も止められない状態になっている、それが戦争

それが浅はかな思い込みだったと政治に疎かった私が、ようやく気がついたのは、米同時多発テロ後に当時の小泉首相がテロ対策特別措置法を成立させるなど、イラクへの自衛隊派遣に向けて動き出した時でした。

その頃米国で学生だった私は、癌で闘病していた祖母と共に日本でひと夏を過ごしていました。祖母は終戦のおよそ半年前に母を出産しており、ミルクの代わりに大根の汁を飲ませたことや、東京に空襲がある度に疎開していた栃木から東京の空が赤く見えた、という話をよく話していました。

しかし、その夏に聞いた祖母の言葉は忘れがたいものでした。「戦争というのは普通の人には分からないうちに進められていて、気がついた時にはもう誰も止められない状態になっているのよ」そして、「今みたいに」と付け加えたのです。私の中に存在しつつあった平和に対する危機感が一気に強くなった瞬間でした。

それから20年以上が経ちますが、その間政府は北朝鮮の存在やテロの脅威などという言葉で国民の不安をあおり、「平和」という言葉を巧みに利用して改憲への道を着々と整備してきた印象です。直近の安倍政権では、違憲とも指摘される安全保障関連法（P17）や特定秘密保護法（P18）を制定し、その他民主主義をないがしろにする強引な手段の数々を目の当たりにする度に「ああ、こういうことなのか」とあの時の祖母の言葉を思い出さずにはいられませんでした。

祖母の平和への切なる願いを胸にとめて

祖母は文章を書くことが好きで、4～50年間のさまざまな機会に書いた沢山の文章を保管していました。そこから厳選したものを一冊の本にまとめ、亡くなる直前に私たち家族に残しました。

今回この原稿を書くにあたって久しぶりにその本を読み返してみたところ、文章のテーマに関わらず、あちらこちらに戦時中の苦しい体験や長年続けた反戦運動への想いなどが綴られていました。平和への切なる願いが何よりも大きく存在していることに気がつき、涙があふれました。

戦争をリアルな体験として感じることが平和につながる

山下牧（会員）東京在住

今、当たり前のようにここにある平和は、過去の多すぎる犠牲を経てようやく日本の人々が手にした尊いものであることを、戦争を経験していない私たちもしっかりと胸にとめておかなければ、と改めて考えさせられました。

「日本は戦争しない？」との娘の問いに、残念ながら「今のところは」と答えることしか私はできません。今の若い世代の人ほど改憲を支持している、と世論調査で示されたことがありますが、戦争を経験した世代の人たちが減り、戦争をリアルな体験として聞く機会が少なくなっていることと無関係ではないでしょう。

「平和」はとても危ういものである

この夏、娘は広島の原爆に関わるイベントに参加する機会があり、当時の話を聞きながら目にいっぱいの涙をためて、辛すぎるからとしばらく退席してしまいました。想像するだけでも怖くて悲しい出来事が実際に日本でも起きていたこと、世界では今も起きていることを知り、今後日本がまた戦争をしないために政治を見張っておくことの大切さを話し合いました。そして今、戦争の恐怖を感じていることは無駄ではないはずだと励ましました。

今の日本や世界を見ていると「平和」はとても危ういものであると実感します。娘が大人になる頃、そしてその次の世代、世の中はどうなっているだろうかと不安が拭えません。どうか戦争のない平和な世界でありますように、と願うばかりです。

Q1 安保法制が憲法違反といわれるのは、どの点なのですか？

A1 憲法９条は、国際紛争を解決する手段としての武力行使を禁止するとともに、「戦力」を持つことを禁じ、「交戦権」も否認しています。

安保法制は、日本が攻められていないにもかかわらず、一定の要件のもとで（Q２参照）自衛隊が海外に出向いて他国とともに武力行使をする、集団的自衛権の行使を認めました。

また、従来戦闘地域とされていた地域でも現に戦闘が行われていなければ、他国軍隊への支援活動を認めることになりましたが、これは自衛隊が他国軍隊の武力行使と一体になった活動をしていると評価されるでしょう。

さらに、ＰＫＯでの任務と武器使用を拡大しましたが、そこから戦闘に発展し武力行使に至る危険があります。ほかにも、自衛隊が、アメリカ等他国軍隊の軍艦や戦闘機などを含む「武器等」を防護する活動を認めましたが、これも、武力の行使に発展しかねない行為です。

これらは全て憲法９条に違反しますし、権力に縛りをかけて国民の権利・自由・平和を守る立憲主義にも違反します。

Q2 安保法制で認められた集団的自衛権はどういうものですか？

A2 集団的自衛権は、Ａ国がＢ国を攻撃したとき、攻撃を受けていないＣ国（日本）がＢ国と一緒にＡ国に反撃するものです（図１参照）。

政府は、「我が国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、これにより我が国の存立が脅かされ、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある場合」（これを「存立危機事態」といいます。）にのみ、集団的自衛権を行使することを理由に、限定的なものだと説明しています。

しかし、存立危機事態の要件が抽象的で客観性に乏しく、中東のホルムズ海峡が機雷封鎖された場合でもこの要件を満たす場合があると言われていたことから分かるように、地理的限定もありません。このような要件では限定としては不十分です。

図１　集団的自衛権

safty_9questions.pdf (nichibenren.or.jp)

なにが「特定秘密」になるの？

A 4

はっきりしていません。

法律の別表では、４つの類型を定めています。

第１号（防衛）は、自衛隊に関することのほとんど全部。
第２号（外交）は、「安全保障」の範囲が曖昧。
第３号（特定有害活動の防止）は、「特定有害活動」の定義（第１２条２項１号）が意味不明。「その漏えいが我が国の安全保障に支障を与える恐れのあるものを取得するための活動」「その他の活動」は何をさすのかわかりません。
第４号（テロリズムの防止）は、「テロリズム」の定義（第１２条２項１号）も意味不明。市民運動や住民運動のようなものまで無限定に広がるおそれがあります。

結局、どれも曖昧な規定で、どのように広げて解釈されるかわかりません。

規定が曖昧だと、国民に隠しごとをいくらでもできてしまい、しかも、その内容を知ろうとすることが犯罪になってしまうので、とても危険です。

パンフレット「エッ！これもヒミツ？あれもヒミツ！あなたも『秘密保護法』にねらわれるＱ＆Ａ」（nichibenren.or.jp）

地球規模の「平和」は、地域で行動することから

もりきかずみ（協力者）神戸市在住

ブラジル人とベルギーで学生結婚、アメリカ、ブラジルで子育て、日本に帰国して当事者の女性たちと「国際結婚を考える会」を設立、国籍法改正などに取り組む。その後、プエルトリコで離婚、第二の人生を実家のある神戸でスタート。

アジアから女性たちが日本に出稼ぎに来るようになり、海外に出稼ぎに行かなければならない女性たちの帰国後の仕事作りが必要だと思い、1994年神戸で「アジア女性自立プロジェクト（AWEP）」を立ち上げ、今でいうフェアトレードを行ってきた。20年続けて引退。

その間、日本に住む外国人支援、婚外子の日本国籍確認訴訟などを経験し、現在はフィリピン人コミュニティで居場所作りのお手伝いをしている。アクリル画とその布を使ったクラフト作りで時々、作品展を開いている。

会の成り立ち「国際家族が安心して暮らせる社会を創りたい」

誰でも平和な社会に暮らしたいと思うのだと思います。「平和」というと、対極にある「戦争」という言葉が浮かんできますが、平和から戦争に至るまでの長い長い過程には、色々な「平和ではないこと」がありますよね。

『国際結婚を考える会』ができたとき、私たちは国際家族が安心して暮らせる社会を創りたいと思っていました。40年たってもまだ会が続いているのは、未だにその目的が成就できていないからかもしれません。でもそんななか私たちは何かに怯えながらも、「平和」に暮らしているではありませんか。そんな矛盾をかかえながら一生が終わるのかな、などと考えてしまいます。

それでも人間は、「平和でないこと」を回避しようとする意志が働くのですね。阪神淡路大震災を経験したことも契機となり、私の周辺で孤立していたアジア女性たちとの接点ができ、子どもを連れて日本語を学んだり、相談に来たりする場を作ったりしました。「作ったり」というのは、その前に、「アジア女性自立プロジェクト（Asian Women’s Empowerment Project）」*1を立ち上げ、来日していた出稼ぎアジア女性の帰国後の支援(写真１)やJFC（Japanese Filipino Children）*2の日本人父親探しをしていたからです。

地球規模の「平和」は、地域で行動することから

もりきかずみ（協力者）神戸市在住

「平和でないこと」— 貧困・人権侵害

マニラで製品作りをする「ランパラハウス」のメンバーと製品

貧困は「平和でないこと」の一つです。貧困から脱出し、平和に暮らしたいと思う人々が海外移住に向かうことを奨励しているフィリピンでは、海外移住者が年間100万人を超えるといいます。フィリピン人女性たちと出会って30年経ちましたが、定住化がすすみ、DVからの脱出、JFCの結婚、孫の誕生など、「平和」な便りを聞く一方で、年金のない老後の不安や帰国願望の声も聞こえます。一方で、日本政府は日本の労働力不足を補う外国人労働者受入れ政策として、技能実習生や看護師、介護士、特定技能といった在留資格を設けてきました。ベトナムやインドネシア、フィリピンからも若い移住者が参入していますが、働く場所で多くの人権侵害もおきています。人権侵害も「平和でないこと」の一つです。日本でおきている外国人労働者に対する人権侵害が「人身売買」の被害者に対する人権侵害だと海外から避難されてきました。実際、エンターティナーとして働いていたフィリピン人女性の多くは接客を強いられ、外出禁止や低賃金での長時間労働、契約内容違反など問題が明らかにされてきました。2005年に「興行」ビザが厳格化され、犠牲者は少なくなりましたが、その後は「技能実習生」への搾取がひどくなってきました。

技能実習制度とは安価な労働力の使い捨てに過ぎない

「技能実習制度」は1993年に、日本の技術、知識を開発途上国へ移転し、経済発展を担う人材作りとして始まりましたが、実際は人手不足を補う安価な労働力を使い捨てする制度でした。何度かの制度改正を経て、実習生の保護を明記した法律で守られているはずですが、2018年にベトナム人女性の技能実習生が研修先に「中絶か強制帰国」と宣告され、逃げ出すという事件がありました。（朝日新聞2018年12月2日）。

地球規模の「平和」は、地域で行動することから

もりきかずみ（協力者）神戸市在住

新聞記事では、2013 年に中国人技能実習生が妊娠を理由に帰国させられそうになり、会社を訴えた裁判では女性側が勝訴、国会での議論でも外国人技能実習生の妊娠、出産、結婚を理由に帰国を強制することはできないと政府答弁がなされているにもかかわらず、強制帰国や中絶を迫られる例が相次いでいると指摘しています。その後も各地の外国人支援団体には、技能実習生や留学生などの外国人女性から妊娠、出産についての相談が寄せられています。中には「妊娠したら解雇」という書類に署名させられたり、日本で出産しても産休や育休が取りにくく、帰国せざるをえなかったり、健康保険がなく国が負担する助産制度が使えないなど、外国人女性の妊娠・出産の問題は看過できない様子になっています。

2018, 12, 2

朝日新聞

「中絶か強制帰国」迫られた

実習生 研修先から宣告相次ぐ

外国人の技能実習生が妊娠し、強制帰国や中絶を迫られる例が相次いでいる。受け入れ機関側から「恋愛禁止」や「妊娠したら解雇」と宣告されるケースもあり、専門家は「人権上問題だ」と指摘している。

・自分の貴重品は自己責任で管理する。学校は一切関与しない。

・たばこを吸わないこと。賭博をしないこと。

・パーティーを行う時は、センター長の許可を得ること。

・男性と女性はお互いの部屋を行き来しないこと。恋愛をしないこと。

・教師と「ほう・れん・そう」をしっかり行い、身勝手な判断・行動はしないこと。

研修施設が技能実習生に約束させる同意書。「男性と女性はお互いの部屋を行き来しないこと。恋愛をしないこと」という項目もある

「妊娠 生産能力落ちる」元担当者

「妊娠2カ月なんです」。首都圏の人権団体のシェルターに保護された技能実習生のベトナム人女性（32）は静かに語り始めた。西日本の製紙工場で実習するために来日し、1カ月の事前研修を終えた矢先に妊娠が分かった。

「中絶するか、ベトナムに強制帰国かのどちらかを選べ」。研修施設の担当者に迫られ、中絶の案を与えられた。

「子供を産みたい。でも日本で働き借金を返したい」と思いつめ、逃げ出した。ベトナム北部の貧しい地域の出身。日本に来たのは「病気の母の治療費で多額の借金があったから」。渡航費の約100万円は祖母や親戚らから借りた。

来日前に関係を持ったベトナム人男性との子だったが、相手は「自分の子ではない」と否定。女性はカトリック川口教会のベトナム出身のシスター、マリア・レー・ティ・ランさん（39）を頼った。SNSで相談すると、逃げる手はずを会話アプリ「ワッツアップ」で教えてくれた。

マリアさんの元にはベトナム人女性からひっきりなしに同様の相談の電話やメールがある。先日も「自殺したい」と32歳の実習生から連絡があった。妊娠し、やはり実習先から帰国を迫られ逃げたという。

西日本のある研修施設の規則には「異性との恋愛行為は一切禁止」とあり、実習生に署名させている。「男性と女性はお互いの部屋を行き来しないこと」とも書かれている。研修施設での順守事項が「企業実習に於いてもほぼ同様の規則となるのでかなり厳しい」と言われる。

施設の元担当者は「会社は実習生を効率よく働かせたい。妊娠したら生産能力が落ちる。実習生に産休をとらせる会社など聞いたことがない」と理由を話す。

また、研修の教員に配られた「トラブル集&対応実テキスト」には、妊娠した場合は①説得②強制帰国③ペナルティーを科す。日本での研修を継続強制帰国＋ペナルティー＝強制帰国＋処罰をした後再入国――とされ、チケット代は自弁で賠償を科す、とあった。「元担当者によると、出国前も『盗聴改革』と題した研修などで妊娠は禁止と指導しているという。

日本でにくなったベトナム人実習生の留学生を用っている東京都港区の寺院「日新寺」には、2022年4月末で101件分の死亡記録があるが、24件は中絶や死産による赤ちゃんのものだ。尼僧ティック・タム・チーさん（40）は「悩んだ末に中絶して精神的に病んでしまう女性も多い」と話す。（平山

「明らかな人権侵害」弁護士ら

「特定技能1号」でも家族帯同認められず

「妊娠、出産、結婚を理由に強制帰国させる行為は違法で、認められるものではない」。実習生の問題が議論された2016年11月の参院法務委員会で、政府はこう答弁している。雇用機会均等法も、事業主は女性労働者に、妊娠や出産を理由に解雇などをしてはいけないと定めている。

13年には、中国人技能実習生が妊娠を理由に強制帰国させられそうになり流産したとして富山市の会社側を訴えた裁判で、女性側勝訴の判決が出た。だが、妊娠を理由とした技能実習生の強制帰国や中絶例は後を絶たない。

実習生の実情に詳しい指宿昭一弁護士は「恋愛や妊娠を禁止することは明らかな人権侵害で許されない」と話す。現在参院で審議中の出入国管理法改正案でも、外国人の新たな在留資格「特定技能1号」は技能実習生と同様、家族帯同が認められていない。指宿氏は「労働者をモノとしか見ていないからだ」と指摘している。

「中絶か強制帰国、どちらか選べ」妊娠の実習生は逃げた：朝日新聞デジタル (asahi.com)

移民を認めたくない、定住させたくない日本という国。

私はベルギーで二人の娘を出産しましたが、学生という身分でも十分な保護が受けられ、ベルギー政府から奨励金までいただきました。当時、子どもはベルギー国籍はもらえなかったですが、生地主義の国であるなら、生まれる子どもは当該国の国民となるのですから、国民同様の保護が受けられるのでしょう。

しかし日本の場合は日本に生まれても在留資格が必要で、しかも技能実習や特定技能１で来日する外国人には家族の帯同が認められていないため、そのような子どもが得るビザは、「短期滞在」や「特定活動」で不安定で不確実なものなのです。

地球規模の「平和」は、地域で行動することから

もりきかずみ（協力者）神戸市在住

なぜこのようなことが起きるのでしょうか。私は阪神淡路大震災以降に立ち上げた神戸外国人救援ネットにも参加してきましたが、外国人からの相談は減ることなく増えるばかりです。

日本は移民受入れ国ではないと言いながら、十分な制度設計をせずに外国人労働者を増やしてきました。技能実習制度やその後に創設された特定技能制度は特別な技能や技術を持つ外国人を3年や5年ごとのローテーションで受入れ、定住を前提とするものではありません。

排斥する国が平和なのだろうか？

「平和な社会に暮らしたい」と誰もが思うと思います。が、この日本社会では外国人を差別化し、日本社会のメンバーとしての受入れを考えているわけではありません。外国人労働者の権利を奪いながら「平和な日本」はあるのだろうか、と私は考えます。

今は気休めに過ぎないかもしれませんが、神戸にあるフィリピン人コミュニティの手伝いをし、日本語クラスや相談活動のコーディネーターをしながら、「平和でないこと」がおきたら共に考え、いっときの「平和」を享受する日々を過ごすことにしています。地球規模の「平和」は、地域（足元）で行動することからも始められますね。

神戸で日本語クラスを開催する「マサヤンタハナン」のメンバー

地球規模の「平和」は、地域で行動することから

もりきかずみ（協力者）神戸市在住

福岡の外国人支援団体「コムスタカ」から以下のニュースが送られてきたので紹介します。

「妊娠を理由に帰国強要」　元技能実習生、福岡の社福法人などを提訴
朝日新聞デジタル2022年10月16日　「妊娠を理由に帰国強要」　元技能実習生、福岡の社福法人などを提訴：朝日新聞デジタル (asahi.com)

技能実習の期間中、妊娠したのを理由に退職・帰国を迫られたとして、フィリピン国籍の女性（26）が、実習先を運営する福岡県の社会福祉法人と、仲介役の大分県の監理団体を相手取り、約620万円の損害賠償などを求める訴訟を福岡地裁行橋支部に起こした。提訴は12日付。

訴えによると、女性は技能実習の在留資格を得て2019年9月に来日。研修を経て、10月から福岡県内の特別養護老人ホームで介護の実習を始め、入浴や食事の介助などに従事していた。

21年4月に妊娠がわかり、翌月、里帰り出産後に復帰する意思を監理団体の理事らに伝えたところ、中絶を暗に勧められたり、「もう実習は終わりです」「あなたはこれ以上いられません」と告げられたりしたという。

さらに、「フィリピン人の評価はあなたのせいで、すごく落ちます」と言われ、帰国同意書への署名を強要されたとしている。

女性は熊本市の支援団体に保護されたが、6月以降はシフトに入れてもらえず、8月末に退職、帰国した。

15日にオンラインで参加した記者会見で、「シフトに入れてもらえないことで、脅された気がして絶望的だった。働きたいと何度も伝えたが、『無駄だ』と言われ続け、誰もサポートしてくれる人がいなかったのが悲しかった」と語った。（後略）

*1「アジア女性自立プロジェクト（Asian Women's Empowerment Project）」：1994年～
日本に出稼ぎに来た女性たちの帰国後の仕事作りとして始め、フェアトレード等を通じた女性の自立を促進する活動をする一方、在日外国人女性の生活相談、情報発信などの国内事業を展開している。
https://tcc117.jp/awep/
*2「JFC（Japanese Filipino Children）ネットワーク」：1994年～
1980年代から日本へ働きに来るフィリピン人女性の増加に伴い、日本人男性との出会いが増え、両者間に生まれる子どもの問題が浮上。幸せな家族を築いている家族がいる一方で、中には日本人の父親に放棄され、精神的・経済的に苦しい生活を余儀なくされている。
こうした子どもたちの父親捜しや、日本国籍の回復など子どもの人権を守る活動を行い、国籍確認訴訟12条と3条の違憲裁判では、前者は最高裁で勝訴した。
マニラには「マリガヤハウス」があり、相談を受けている。
https://www.jfcnet.org/

≪　国際家族のレシピ紹介　≫

グラノーラを作ってみませんか？

リード　真澄（会員）東京在住

　アメリカに住んでいた時、オートミールを食べると健康に良いことを知ったのですが、ご飯のように煮たりしたものは口に合わず、それではグラノーラを作ってみよう、と思い立ってから、何と数年間にわたり、朝食は毎朝「グラノーラ、苺やブルーベリーなどの果物とヨーグルト」を食べていました。自分で作ると、好きなもの、体に良いものを何でもオートミールに混ぜることができます。

　今回レシピーの一例をご紹介しますが、ここに載せた材料にこだわらず、色々なナッツやドライフルーツ、向日葵や南瓜の種、胡麻など何でも入れてみてください。

材料：

・オートミール　４カップ
・ナッツ(スライスアーモンド、
　細かくしたウォルナッツなど）１カップ
・フラックスシード　１カップ
・ひまわりの種　１カップ
・塩　小さじ１杯ほど
・ココナッツオイル（またはオリーブオイル）
　1/2カップ＊
・ドライフルーツ（クランベリー、レーズンなど）
　１カップ

＊オイルを入れるとパリパリしますが、私はオイルの代わりにお湯1/4カップに蜂蜜を大さじ2杯ほど溶かして使います。ドライフルーツを入れない場合は蜂蜜の量をもう少し増やしましょう。

作り方：

① ドライフルーツ以外、ボールに入れて混ぜ、オイル（またはお湯）を入れます。
② オーブンパンに広げて、180度に温めたオーブンで45分ほど焼きます。15分ごとにかき混ぜて、一部だけが焦げないようにします。
③ 焼き上がってから、ドライフルーツを入れてかき混ぜます。

食べ方：
もちろんお好きなように召し上がってください。
牛乳をかけたり、ヨーグルト（甘くないものが良いです）や果物がお勧めです。

「女性から見た戦争と平和」をテーマに、独断と偏見で３つのノンフィクション・漫画・映画（アニメ）オススメ作品を選んでみました。

会報係　清麻桐

■　戦争は女の顔をしていない

スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ著、三浦みどり訳　（岩波現代文庫）
https://www.iwanami.co.jp/book/b256544.html

漫画：小梅（こうめ）けいと画、速水螺旋人（はやみ・らせんじん）監修　（KADOKAWA）

コミックウォーカー連載ページ
毎月27日頃更新
https://comic-walker.com/contents/detail/KDCW_AM00000019010000_68/

2015年にノーベル文学賞を受賞したスヴェトラーナ・アレクシエーヴィチは1948年、ベラルーシ人の父とウクライナ人の母の間に旧ウクライナ・ソビエト社会主義共和国スタニスラフ市（現在のイヴァーノ・フランキーウシク市）で生まれ、ベラルーシで育った作家です。

1941年にナチスドイツがソビエト連邦を侵攻し、ソビエト連邦は4年に渡り凄惨な総力戦を展開して反撃し、男女平等をうたう社会主義のもと、80万人もの女性が志願して従軍しました。第二次世界大戦中ソビエト連邦軍人・軍属の20人に1人が女性だったことになります。

その中には10代の少女たちや、妻や母だった者もいました。彼女たちの多くは男性兵士と変わらない役割を果たし、狙撃兵や戦闘機パイロットとして活躍した人たちもいました。

「戦争は女の顔をしていない」は当時雑誌記者だったアレクシエーヴィチが1978年から、第二次世界に参加した500人を超える女性たちに戦争体験の聞き取りを行ってまとめた本です。

ソビエト連邦は戦勝国になりましたが、祖国を守った英雄として讃えられるはずの女性たちは戦後、PTSDと偏見に苦しみます。しかし、彼女たちの血みどろの戦争体験は心がキュンとなる青春の追憶とわかつことができないのです。

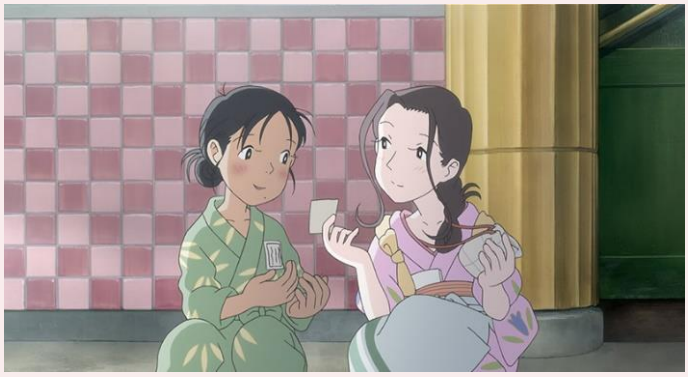
「女性から見た戦争と平和」をテーマに、独断と偏見で３つのノンフィクション・漫画・映画（アニメ）オススメ作品を選んでみました。

会報係　清麻桐

2019年からKADOKAWAのウェブコミック配信サイトコミックウォーカーで、小梅けいとによるコミカライズ版が配信されています。ソビエト連邦の軍事に詳しい漫画家の速水螺旋人が時代考証を担当しており、原作がとても丁寧に視覚化されています。私は漫画から入りましたが、続きが読みたくなって原作も買って読みました。原作も一人一人の聞き書きは長くないので読みやすいです。

皮肉にもロシアが「ウクライナの非ナチ化」を建前にウクライナに侵攻して半年以上たちました。2022年のウクライナでも、母国のために志願して戦場に身を置く女性たちがいます。歴史の大いなる皮肉を思うと共に、彼女たちがまたおしゃれをして街に出かけたり、国外に旅行に行ったりできる平和な暮らしに早く戻れることを願ってやみません。

■この世界の片隅に（2016）
この世界の（さらにいくつもの）片隅に （2019）



この世界の（さらにいくつもの）片隅に【映画】
片渕須直（かたぶち・すなお）監督
この世界の片隅に
【コミック】全3巻　こうの史代（ふみよ）著　双葉社

昭和19年、広島市江波に住む19歳の浦野すずは海軍鎮守府のある呉に嫁ぎます。太平洋戦争末期、一家の主婦として家計を支えるすずと周りの人々の約２年間の暮らしを丁寧に描き出します。架空の人物が登場するアニメ映画ですが、作中に登場する広島と呉には綿密な時代考証に基づいたリアリティが息づいています。

片渕須直監督は毎日の天気から空襲のスケジュールまでを可能な限り一次資料をあたって調べ上げ、映画に反映しました。冒頭で登場する昭和8年暮れの広島市中島本町（原爆の爆心地となり、現在は丸ごと平和記念公園になっています）のシーンに登場する大津屋モスリン堂の外観を写した写真が映画公開後に見つかったため、背景が描き直されたほどです。日本では熱心なリピーターが続出し、全国各地の地元の映画館が息の長いロングラン上映を続けたことでファンの間では有名です。

「女性から見た戦争と平和」をテーマに、独断と偏見で３つのノンフィクション・漫画・映画（アニメ）オススメ作品を選んでみました。

会報係　清麻桐

背景の情報量が非常に多いため、何度見ても新たな発見があります。音響にもこだわって作られているので、機会があったらぜひ劇場の大きなスクリーンで見ていただきたい映画です。映画の興行の成功を受け、2019年暮れには割愛されたエピソードを足した長尺版、「この世界の（さらにいくつもの）片隅に」が公開されました。

終戦が年々遠くなる今、太平洋戦争の記憶の継承を考えなおす様々な試みが進んでいます。片渕監督協力のもと、NHKは毎年夏に#あちこちのすずさん（https://www.nhk.or.jp/special/suzusan/）という、戦時下を生きた人々の暮らしを掘り起こすプロジェクトを行っています。

■ 美童（みやらび）物語

現在2巻
比嘉慂（ひが・すすむ）著
モーニングKC

2010年夏に上京して池袋ジュンク堂書店で開催されていた「この世界の片隅に」の原画展を見に行ったとき、原画のとなりに戦争マンガが平積みになっていて、この本が目にとまりました。昔から沖縄が好きなので手にとってみて大好きになった本です。

日中戦争下の那覇の高等女学校1年生、海里カマルの眼を通して、戦世（いくさゆ）とヤマト（日本政府、本土）による思想弾圧や同化政策に戸惑い傷付きながらも、力強く生きる沖縄の人々の暮らしが描かれます。

カクカクしてぎごちない絵ながら、戦前の沖縄にかつて存在した風景を草木一本までこと細かに描き込み、時折人物の見せる表情のはっとさせられる美しさ、何度でも読み返したくなる不思議な作品です。

著者は沖縄社会と戦争をテーマにした作品を発表し続けており、2003年に「カジヌムガタイ」で文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞を受賞しています。

海外便り―　フランスの交通事情について

ジロー岩内佳代子（会員）フランス在住

こんにちは。今回は現地レポートということで「フランスの交通事情について」書きたいと思います。

私は夫（フランス人）と日本で知り合い結婚し、2児をもうけ8年ほど日本で暮らしましたが、夫の任務期間が切れたので家族4人でフランス、パリ郊外のアパートに引っ越して来ました。あれから35年、今もそのアパートに住んでいます。フランスに来てから2年後に仕事をはじめ、去年定年退職しました。以上が自己紹介ですが、私がどうして自己紹介から始めたかというと、この記事はこのような背景の者が書いたということを知ってもらいたいからです。

というのも、一口にフランスの現地レポートと言っても、筆者がどんな環境にいるのかによって見た目も経験も違ってきます。自分の見たこと経験したことしか書けないので、（かなり主観的な部分もありますし）フランスに住んでいても私の記事に同感される方もいらっしゃるでしょうし、それはちょっと違うと思われる方もいらっしゃるでしょう。この点を了承いただきたいと思います。

正直言って特に日本と比べると、フランスの交通事情は欠点ばかりが目につきます。（35年も日本を離れていると「隣の（日本の）芝生は緑」ということもありますが）。かなり日本を美化しているかなとも思いますが、それにしても…と言いたくなることばかりです。

汚さにびっくり

私が来た頃は、まず電車バスの汚さにびっくりしました。それに座席が破れていたり、飲み物食べ物の残りが散らかっていたり、と言った有様でした。今は特に観光客がよく利用する部分をきれいにすることから始めて、私の住む郊外（場所に依りますが）でも（日本並みに）随分きれいになりましたが。私は職場がパリの反対側の郊外だったので通勤にはパリを横断する電車を利用していましたが、3本に2本は昔の電車のままです。

時間通り来ない

私の通勤時もそうですが電車がよく遅れます。15分や20分の遅れは日常茶飯事です。電車が遅れてもフランス人は自分に責任がないからと構えていますが、私は遅れたら大変とそわそわしちゃいます。電車やバスは時間通り来るものというのが常識であったので、（5年ほど前に日本で旅行した時に、電車が3分遅れたことを駅に着くたびに謝っていました。これもすごいなと思いますが）最初はびっくりしました。

海外便り―　フランスの交通事情について

ジロー岩内佳代子（会員）フランス在住

理由はいろいろです。人が線路に降りたとか、機械の故障とか。テレビでもこの電車の遅れを取り上げていて、電車が時間通り来ず遅刻が多いので仕事を辞めなければならない人がインタビューされていました。

以前あるオーディションを受けに行った時、前日に開通間もないTGV（新幹線）に乗ったんですが、TGV開通に反対する人たちが線路に横たわって抗議運動をしたため、5時間ぐらい遅れて目的地に到着。雨の中どうにかこうにか終市電とバスを乗り継ぎ、夜遅く散歩をしていたお兄さんに道案内してもらって、やっとの思いで真夜中にホテルに着いたという経験もあります。

トイレがない

「フランス人はトイレに行かないのか」と思うくらい、トイレが少ないです。各駅に（普通に使える無料のトイレが）最低一つ、もしくは各改札口に一つトイレがある国から来た者にとってこれも驚きの一つです。私の乗換駅なんてホームの隅っこにあることはあるのですが鍵がかかっていて使えない!!!トイレの係りに聞いたら「汚く使うので使わせない」と言われました。確かにかなりひどい使い方をします。ちなみに、私の家の近くのショッピングセンターにも引っ越してきた当時はトイレがなくびっくりしたことがあります。

自動販売機が故障

今もそうですが、切符を買ったり定期券の更新をしたりする機械や、食べ物飲み物の自動販売機が故障ということもしょっちゅうで、すぐに直されることはありません。それで切符が買えず電車に乗ってから、車内で検査員と喧々諤々という光景も何回も見ました。ここは無賃乗車する人もかなりいるためよく検査があるのです。

運転手さんが襲われる

ある日娘が「行ってきます」と言って家を出て行ったのですが、30分ぐらいして戻ってきました。いくら待ってもバスが来ないというので、遅刻したら大変と車で送って行きました。次の日にわかったのですが、路線バスの運転手さんが乗客に襲われたため「労働上の安全が確保できないと仕事ができない」と怒った運転手さん達が、運転をボイコットしたためその日はバスがなかったというのです。そういう事情もそのころはインターネット、スマホがない時代でしたから、大体早くて次の日、または2日か3日たってからわかるのが普通でした。このような運転手さんの襲撃が多くて問題になった時期があり、ニュースでも多く取り上げられていました。

海外便り―　フランスの交通事情について

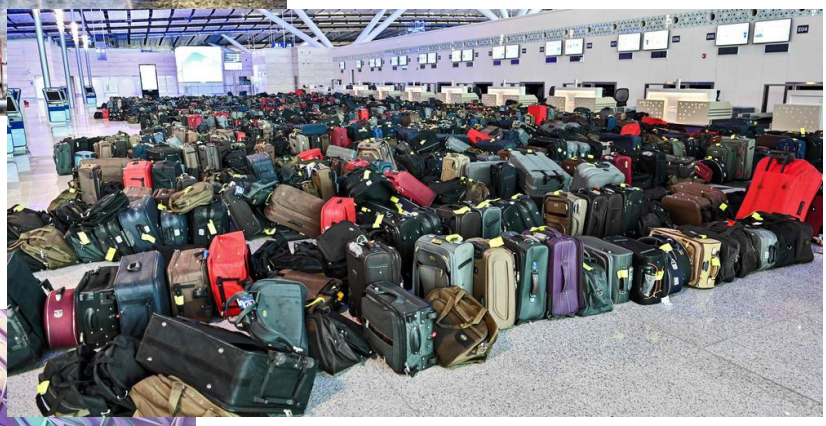
ジロー岩内佳代子（会員）フランス在住

ストライキ

たとえばお休みに入って飛行機の利用客が増える時期に、航空会社や空港がよくストをします。これもほぼ毎年のように起こることで、ニュースでも飛行機が飛ばず困っている観光客でごった返している空港、ストのまま放置されたスーツケースが映されています。

このようにいろいろ難題はありますが、住めば都といったところでしょうか。いろいろな人に助けられ子育て仕事をして、無事定年退職できたことに感謝しながらこれからもここで生活していこうと思います。

労働法改革に反対するデモ隊が線路に侵入した様子



空港のストライキのため放置されたままの旅行者のスーツケース

交通機関関係者が給料値上げを要求するストライキを始めたためごった返す駅

◎　第6回JAIF海外会員オンラインお茶会（親睦会）
8月12日(金)　ハワイ9時、PDT 12時、EDT 15時、英20時、独21時から
（日本は翌日（土）4時、メルボルン（土）5時から）
アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、日本、オーストラリアから合計18名が参加しました。
今回のテーマは、
「夏だ、旅行だ！？（帰国も含む）。日本や現地の家族は！？」
（介護、老後、相続も含む）でした。

前半は全員がメインの部屋に集まり、１人約５分、お話しいただきました。
後半は４、５人ずつのグループに分かれてディスカッション（初の試みでした）。
「帽子コンテスト」も開催しました。素敵な帽子をかぶった皆さんの写真がフォーラムの記事でご覧いただけます。

◎　第3回オンライン井戸端会議
8月28日（日）　13:00(日本) 5:00(英) 6:00(独) 00:00(米国EDT)
8月27日　21:00(米国PDT)
15名の参加者がありました。（米国６名、日本６名、豪州１名、独１名、英１名）でした。約二時間半井戸端会議らしく下記のような色々な話題が出て活発に話合いました。
・９月７日からの渡航に係る日本側の入国条件変更（PCR検査による陰性証明、ワクチン接種証明等）
・マスク着用状況等から判断されるコロナに対する各国の国民の態度
・外国籍を持っている配偶者、或は婚約者の日本入国に係る長期、短期ビザ申請手続きの現状
・海外在の日本人にとり日本の預金口座の維持問題
・二重国籍を持っている子弟が日本滞在が必要な時、外国籍での滞在ビザ申請は可能？
・二重国籍を持っている子弟が日本の旅券を使わずに日本出入国をした場合の疑問点
ホームページの会員専用のフォーラムにて、当日出た質問についての回答が丁寧に掲載されています。ご参考になさってください。

◎　オンラインイベント 国籍法が生み出す不安
9月17日(土)　15:00(日本) 7:00(英) 8:00(独)　2:00(米国EDT)　9月16日　23:00(米国PDT)　20名参加　（会員限定）
国籍法のために、ご自身に限らずお子さんの現地国籍、或いは日本国籍喪失が起こることに不安を抱えておられる国際家族の方が大勢おられます。特に複数国籍を認めていない国に在住している方々が、どのような不安に直面しているか、お話を伺いました。

①　日本で出生したお子さんの外国籍について
②　配偶者の国への渡航に当たり、国籍選択宣言を済ませた二重国籍のお子さんのパスポートを申請しようとしたところ、国籍選択をしているのに、なぜ二重国籍のままなのか、とパスポートセンターの窓口で間違った対応をされたことについて。
③　タイの配偶者とタイに在住している日本人の親が、お子さんが日本国籍選択宣言をすることで、タイが二重国籍を認めていないため、タイ国籍を喪失する不安、そして国籍選択届を出さないとパスポートを発行しないと言われたケースもあるとのこと。
その後Breakout roomでグループごとのディスカッションをしました。
参考になるYouTubeや詳しい回答などがフォーラムに載っていますのでご覧ください。

｜編集後記｜

今号のひとつひとつの記事の中には、平和への切実な願いが込められていて、簡単ではない国際結婚を選んだ人生そのものが、平和とは何かを求めるチャレンジの人生につながっているようにも思え、読み応えがありました。

私自身、編集作業に関わりながら平和についてもう一度考えるいい機会でした。次世代に、少しでも平和で希望のある明るい世界を残していけるよう小さなことからでも行動出来たらいいなと思います。皆さんはどんなご感想を持たれましたか？

国際家族のお料理レシピやカルチャー紹介、海外便りのコーナーもとても興味深くて楽しい記事が集まりました。引き続き、皆さまからの投稿を会報誌一同お待ちしています。　　コールマンひろみ

edit@kokusaikazoku.com

※お詫びと訂正
第8号P17でルビのミスがありました。
聴松閣(ちょうしょうかく）が正解です。

次回予告｜会報誌第10号　（2023年01月31日発行予定）

特集：●『世界各国事情』

会報も今回で10号となります。現在、JAIF会員の半数以上は海外在住者です。会員の皆さまが暮らしている国の**教育、住宅事情、食生活、日常生活、変わった習慣**などをご紹介ください。写真などがありましたら、それも添付ファイルで送ってください。

初めての方も書きやすいテーマだと思いますので、奮ってご投稿お願いいたします。きっと、国際色豊かな会報になると思います。

締切は、2022年12月11日（日）ごろです。よろしくお願いします。
会報係新メールアドレスはこちらです。edit@kokusaikazoku.com

小暮朋子、ハワード弘子、コールマンひろみ、清麻桐、カマーゴ・李栄